

議員とカダる会（議会報告会・意見交換会）報告書

開催日時	令和8年5月15日（金） 15時00分～17時00分
開催場所	青森市役所本庁舎サードプレイス
会場責任者	奈良 祥孝
記録者	天内 慎也
出席議員	奈良 祥孝、蛭名 和子、中田 靖人、軽米 智雅子、天内 慎也、 舘山 善也、大矢 保
参加者数	21人（うち議員7人）
報告内容	令和8年第1回青森市議会定例会の主な出来事について
意見交換内容 （意見の要旨）	テーマ：市役所って不便？ ー知って楽々！DXー ①来場者アンケートに基づく意見 今回の来場者14名に対しアンケート調査を実施した。 「DXについて理解できましたか？」の設問に対し、 理解できたと回答したのは36.4%、少し理解できたと回答したのは45.5%、難しかったと回答したのは18.2%であった。 「DXを利用してみたいですか？」の設問に対し、 利用したいと回答したのは54.5% その理由として、 ・便利だし、使いこなせる市民が増えれば、いずれ職員の負担や財政負担の低減につながると感じた との意見があった。 もっと説明が聞きたいと回答したのは45.5% その理由として、 ・AI等と併用することはわかったが、人間本来のよさを引き出せているかが疑問。 ・理想は分かったがデメリットも大きいと感じる。 との意見があった。 ②来場者の感想 ・DXによる財政のやりくり効果について、大いに期待したいところではあるが、職員の数が減っても仕事内容は減らないのであれば疑問である。 ・タイトル「議員とカダる会」と内容が全く違う。DXの説明は、この場には不適切だと思う。次回は、議員と話し合う企画にしてほしい。 ・「情報格差」というものについて考えさせられた。DX化を進めた先には、きっと「これがDXなんだ」とわざわざ言わなくても生活の中に自然にDXが溶け込んで行くことになると思うので、そうなれば情報の格差は小さくなるのかなと思った。

	・会議室等で行えばいい。騒音がある。 ・市役所等内に特化したものとして進めるのか？市民との関わりをより多く持つことでもっと便利になるようなシステム化をお願いしたい。 ・なかなか有意義だった。各議員さんたちの市政、市民に対する熱い思いが伝わり、よかった。これからもよりよい青森づくりをよろしく願いたい。 ・次回、また参加したい。 ・これまで地元に入っていた金が、システムのランニングコスト等で市外（県外）に流れないか心配。デジタルを使いこなせない人を取りこぼさない対策が必要。 ・DX推進については、大学の講義で受けた内容とほぼ一緒だった。今回のカダる会で感じたことは、議員もデジタル化を勉強中であるというのが大変だということである。私たち市民でさえ難しいのに、現場の方々がデジタルの移行に悪戦苦闘しているのは生きづらさにもつながっていると思う。さらに、イラン情勢やウクライナ等紛争が絶えず混沌としている中で、1人1人の意識向上だけではなく、周囲を巻き込んだ取組が重要になっていくと考える。 ・スマートシティー（コンパクトシティー）についての疑問や質問もあるので、ぜひ機会をつくってほしい。 ・よい機会だと思った。明るい未来を目指すため、何かを責めるだけでなく、こういった前向きな話をもっとしてほしい。
記録者所見	官民ともにDX活用が大きく進められている中で、議員と市民が一緒にDXについて学び、理解を深める機会となった。今回は議論をするだけではなく、市の取組や今話題の商品券について等を担当課であるDX推進課に説明を聞く形をとり、専門性がありながらも理解しやすく有意義な時間になったと考える。 アンケートにおいてもDXについて利用してみたいと考える方が多く、今後も前向きにDXの推進を図り、便利でよりよい青森市を実現したい。

青森市議会議長 様

令和8年5月22日

上記のとおり報告いたします。

会場責任者 総務企画常任委員長 奈良 祥孝

